

ことばを育む

1. ことばとこころの育ち
2. ことばをつくる土台
3. ことばの発達を支えるために



1. ことばとこころの育ち

「ことば」の育ちは、生まれてからすぐに始まっています。

0～3カ月

- 泣くことで意思表示：泣いたら大人が助けてくれると分かることで、声を出して伝えようとする気持ちが育つ。

3～6カ月

- あやすと笑う：大人があやすと笑い、さらに大人があやす、という大人との相互的な関係が育つ。
- ものを目で追う：首や目を動かして、興味のあるものを見ることができるようになる。

6～9カ月

- 人まね：拍手やバイバイなど大人の動作をまねする。
- 同じものを見る：お母さん、お父さんなど好きな人が見ているものを自分も一緒に見ようとする（共同注意）。
- 指差し：行きたい方向や欲しいものなどを指差しで伝えようとする。

9カ月～
1歳

- 話しかけられていることが分かる：「おいで」と言うときに来る、「〇〇は？」と聞くと探そうとするなど。意味のあることばは言えないが、話しかけられることは分かっている。
- ごによごによおしゃべり：遊びながら、いかにもお話をしているみたいにムニャムニャ、ゴニョゴニョといろいろな声を出す。

1歳～
1歳3カ月

- ことばを言い始める



1歳3カ月～
1歳6カ月

- やりとりができる



始めは泣くことでしか自分の気持ちを表現できなかった赤ちゃんが、発達するにつれ、あやすと笑うようになってきたり、ほしいものを目で追ったり、手を伸ばしてとってほしいようなそぶりを見せます。そのときどきの子どもの気持ちを汲み取り、願いをかなえてあげることを繰り返すことで、子どもは「伝わる経験」をたくさん積みまします。そうしてことばが育っていくのです。

2. ことばをつくる土台

■はっきりしたことばをつくる「スピーチ」の力

きれいな発音で話すためには、お口の運動発達が必要です。食事で舌や唇を動かす練習を重ねて、舌や唇の筋力・柔軟性を伸ばしましょう。

■豊かなことばを育てる「ランゲージ（言語）」の力

「見る」、「聞く」、「感じる」、「味わう」などたくさんの経験を積みましょう。

■楽しい会話をのもと「コミュニケーション」の力

自分の発信が受け止めてもらえたという体験を増やし、
人の話を聞くのが楽しいという体験を積みましょう。

コミュニケーションを育てるために、
子どもの動きや声を
マネしてみましょう！

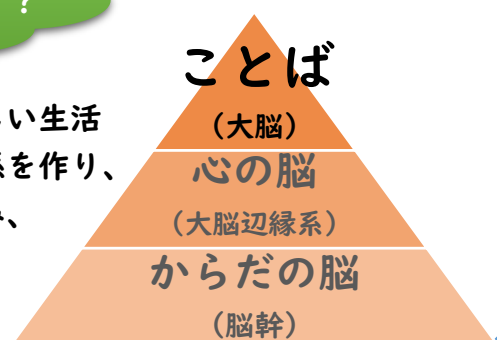
「ことば」を育てるには脳の働きが大きく関わっています

「ことば」を生み出すのは脳です。

呼吸や体温調整など生きるためのからだの働きを担当する脳幹は「元気なからだ」をつくります。心の働きである情動を担当する大脳辺縁系は「安定した心」を支えます。「ことば」や「知力」などをつかさどる大脳は「元気なからだ」と「安定した心」両方が支えています。この二つの土台をしっかりと育てることが大切です。

どうしたらいいの・・・？

まずは、生活リズムや睡眠リズムを整え、規則正しい生活をするのが大切です。そして、親子で心地よい関係を作り、発達にそった運動や豊かな体験・経験をたくさん積み、心や気持ちの発達を促します。これらの積み重ねで「ことば」が育まれていきます。



—ことばを支える能力—

周囲の人とのコミュニケーションの中で、「相手に伝えたい」「わかってほしい」という気持ち、それを理解してもらえたときの喜びを積み重ねることによって、よりわかりやすい伝達手段の「ことば」を身につけていきます。子どもは自分の気持ちを理解してもらえた喜びを知り、コミュニケーションの大切さを感じ、周りの大人を信頼する気持ちが育ちます。

3. ことばの発達を支えるために

関わり方の Point !

明るい声で、子どもの気持ちを代弁して、前向きなことばに変えて

ことばが出る前の関わり

■大人の語りかけのポイント

①世話をしながら話しかける

パンツを履きながら「はけました」など視線を合わせて伝えていく。

ことばの存在に気づくことが出来るようになります。



②からだの動きや気持ちに合わせて声をかける

ごはんを食べながら「お口、あーん」などを伝えることで、経験から身体の名前や動きのことばを自然に身につけていきます。

③擬音語、擬態語をたくさん使う

「コロコロ」「ゆらゆら」「ブーン」など繰り返しの音は耳に心地よく、子どもの注意を引きます。楽しい音に興味津々で自分も真似したいとお口を動かそうとします。



④あいさつも大事なことばかけ

周りの人がいつもあいさつのことばを使っていけば子どもも自然に覚えていきます。

子どもが上手にあいさつを出来なくても代弁してあげましょう。

⑤動作の始めや終わりにことばをかけて区切りをつける

「始め」と「終わり」にきちんと区切りをつけていくことは自立の第一歩。

遊びのまとまりを考えながら遊ぶ経験になります。

⑥子どもの興味に合わせて声をかける

子どもが興味を示すものに声をかけ、興味を共有することで、意思を伝えた・伝わったの経験を積むことができます。



■声が出はじめてからのポイント

○子どもの出す声や音をそのまま真似てあげる

自分の行為が他者に影響を与えることを楽しみ、発話意欲を育てることができます。

■一緒にできる遊び

* 身体を使った遊び

大きく身体を動かす事で声も出やすくなります。「追いかっこ」や「こちょこちょ遊び」など一緒に関わる遊びは「もう一度して欲しい」「もっとして欲しい」と要求行動を引き出すきっかけにもなります。

例えば…おいかっこ、おんぶ、タカイタカイ、こちょこちょあそび、すべり台など



* わらべ歌

何度も聞いて耳に馴染んでくると、[いっぽんばし][にらめっこ]などを聞いてお母さんがくすぐりをしてくれる・面白い顔をしてくれるなどと期待して待つようになります。また、自分から「ばあ」と言うなどやりとり遊びの準備になります。

* 手遊び歌

覚えてくるとまねっこをして一緒に振りをしようとします。また、自分から遊びに誘うきっかけになり、周りの人とのコミュニケーションのおおもとになります。

* 絵本の読み聞かせ

単純な果物や自動車の絵本から繰り返し同じことばを聞き、好きなものや身近なものの名前を覚えていくことができます。



ことばが出はじめたら

大人の語りかけの Point！ 繰り返しと調子づけが興味を引く

■ことばを増やすために

①子どものまちがいをさりげなく言い直して返す

間違いを指摘すると発話意欲を下げることにもつながりやすいため、正しいことばを聞かせることで、発話意欲を損なわずに、正しいことばへの修正を促せます。

②ことばの意味や文法を広げて返す

子どもが言った単語を二語文に広げて返すことによって、子どもは発話の内容や意図を大人が理解してくれていることがわかり、より複雑な言語の学習につながります。

楽しくゆっくりと聞く力・伝える力を育てていきましょう！

<参考文献>

子どもの発達に合わせたお母さんの語りかけ

1. 2. 3 歳ことばの遅い子

はじめて出会う育児の百科

